

回 答 書

受付番号	回収年月日	回収場所	担当主管課
第38号	令和6年10月3日	伊予市役所	産業建設部 環境政策課
題 目(テーマ):下水道を利用するブルーカーボン化について			
提 案 理 由(要旨)			
現在、2050年カーボンニュートラル達成のために世界中から注目されているのはブルーカーボンである。その理由は、陸上の森林(グリーンカーボン)と比較し、温室効果ガス(二酸化炭素)の吸収量が2倍以上と高く、日本は海に囲まれており、藻場を作りやすいメリットがあります。 今回ご提案するのは、下水道処理場から放流される栄養分豊かな放流水から藻場を造成させることです。政府や企業も温暖化対策に繋がる手段として日本各地に展開させようとしています。 伊予市も2050年ゼロカーボンシティ達成のためにもご検討されては如何でしょうか。			
回 答 内 容			
この度は、「下水道を利用するブルーカーボン化について」貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。 本市の下水処理施設では、水質汚濁防止法や下水道法に基づき、放流水の水質基準が定められており、これらの基準に従って下水道の処理水を海洋に放出しております。 現在、国や県なども窒素やリンの放出増を推奨しているようですが、現時点では、窒素やリンを増やすと他の物質が環境基準を満たさなくなることが予想されます。そのため、理論的には可能であっても、現実的には技術面やコストの問題から対応は困難と考えております。 今後、基準が緩和されるなど法令改正や社会情勢の変化があった場合には、ご提案の栄養分の放出増を検討させていただきたいと存じますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。			